

イザリウオ科魚類ロケットイザリウオ (新称) *Antennarius analis* の日本からの記録 および命名者の取り扱い

昆 健志・吉野哲夫

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地 琉球大学理学部海洋自然科学科
(電子メール: k988553@sci.u-ryukyu.ac.jp)

(1999年1月25日受付; 1999年5月6日改訂; 1999年6月28日受理)

キーワード: イザリウオ属, ロケットイザリウオ, 命名者

魚類学雑誌
Japanese Journal of
Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 1999

Takeshi Kon* and Tetsuo Yoshino. 1999. Record of the frogfish (Lophiiformes: Antennariidae), *Antennarius analis*, from Japan, with comments on its authorship. Japan. J. Ichthyol., 46(2): 101–103

Abstract A specimen of *Antennarius analis* (Lophiiformes: Antennariidae), collected from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan, represents the northernmost record of the species and the first record from Japanese waters. The species is easily distinguished from other members of the family in having the opercular opening adjacent to the anal fin. Judging from comments in the remarks accompanying the original description, the author of the species is Schultz, who was alone responsible for both the name and description of the species.

*Corresponding author: Department of Marine Sciences, Faculty of Science, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan (e-mail: k988553@sci.u-ryukyu.ac.jp)

イザリウオ科 Antennariidae は Pietsch and Grobecker (1987) の分類学的再検討によって12属が認められ, そのうち日本には3属 (ハナオコゼ属 *Histrio*, イザリウオ属 *Antennarius*, イザリウオモドキ属 *Antennatus*) 13種が分布している (横田・瀬能, 1991; 瀬能, 1993; 瀬能ほか, 1994; Ohnishi et al., 1997).

1997年8月17日から8月18日にかけて, 台風13号が沖縄島の南方海上を通過し, 同島を長時間暴風域に巻き込んだ。その結果, 沖縄島中部東海岸では多数の魚類が打ち上げられた。それらの中に, 今まで日本では知られていなかったイザリウオ科のイザリウオ属魚類が1個体含まれていた。この個体は, 昆ほか (1998) によって *Antennarius analis* として報告されたが, 詳細な記載は行われていなかった。今回, 本標本を再記載すると共に新標準和名の提唱を行う。また, 今まで本種の命名者は

Gosline とされることがほとんどであったが, これは誤りであることが判明したので本種の命名者の取り扱いについても言及した。

標本の計数と計測は Hubbs and Lagler (1964) に従った。ただし, 背鰭・臀鰭条数は, 最後の1個の担鰭骨に支持される1軟条を1本として計数した。記載標本は琉球大学理学部海洋自然科学科 (URM) に保管されている。

Antennarius analis (Schultz)
ロケットイザリウオ (新称)
(Fig. 1)

Abantennarius analis Schultz, 1957: 67, fig. 2 (原記載; 模式産地, オアフ島, ハワイ諸島); Gosline and Brock, 1960: 305, 345; Tinker, 1978: 506, unnumbered fig. (figure after Schultz, 1957); Eschmeyer et al., 1998: 94.



Fig. 1. *Antennarius analis*, URM-P 38363, 56.4 mm SL, from Okinawa Island.

Antennarius analis: Pietsch, 1984: 36 (属の変更);
Pietsch and Grobecker, 1987: 163, figs. 62–63,
124; Paxton et al., 1989: 278.

記載標本 URM-P 38363 (1個体), 標準体長
56.4 mm, 沖縄島中城村浜漁港 (台風による打ち
上げ), 1997年8月18日採集.

標徴 鰓孔が臀鰭基部付近にあるという特徴
によって, イザリウオ科の他種から識別できる.

記載 背鰭条数 I-I-I-12; 臀鰭軟条数 7; 胸鰭軟
条数 10; 尾鰭軟条数 9; 脊椎骨数 19.

吻上棘長 20.6% (標準体長に対する百分率, 以
下同様); 背鰭第2棘長 9.2; 背鰭第3棘長 21.3; 眼
径 7.1; 鰓孔と尾鰭第9軟条基部間の距離 11.0.

体は小棘に覆われる. 吻上棘は細長く, 皮膚に
覆われない. また, 後方に倒したとき, その先端
は背鰭第3棘の基部から1/3付近まで達する. 吻上
棘先端の皮弁基部は球状で周囲に糸状の付属物
があり, 全体が黒色である. 背鰭第2棘は棘後
方の皮膜を欠く. その長さは吻上棘の約1/2で,
後方にやや湾曲し, 全体が小棘を持つ皮膚に覆
われる. 背鰭第3棘は吻上棘とほぼ同じ長さで,
若干後方に湾曲し, 棘後方の皮膜の幅は非常
に狭い. 背鰭後方の2軟条, 臀鰭と尾鰭の全軟
条は分枝する.

胸鰭と腹鰭は全軟条が不分枝. 鰓孔は臀鰭基
底部に位置する. 尾柄部は不明瞭.

アルコール保存後の体色 体全体は褐色で,
腹部は少し淡い. 背部には濃褐色および白色
の不明瞭な小斑点が散在する. 腹側には不明
瞭な小白点のみ散在する. 背鰭と臀鰭は褐色.
胸鰭と腹鰭は白色. 淡褐色の尾鰭には褐色
の横帯が3本ある. 吻上棘には多数の暗色
横帯がある. 眼の周囲に濃褐色の帯が放射
状に走る. なお, 鮮時の体色は, 台風の打
ち上げ個体であるために保存状態が悪く不
明.

分布 東部インド洋のクリスマス島から中
部太平洋ソシエテ諸島, ハワイ諸島まで
(Pietsch and Grobecker, 1987) と沖縄島中
城湾 (本報告: 北限記録).

備考 記載標本は吻上棘長が比較的長いこ
と, 背鰭第2棘後方の皮膜を欠くこと, 各鰭
条数 (背鰭条数 I-I-I-12; 臀鰭軟条数 7; 胸
鰭軟条数 10; 尾鰭軟条数 9), 背鰭および
臀鰭の後端が尾鰭と鰭膜で連続しないこと,
鰓孔が臀鰭基部付近にあることなどの形質
が, Schultz (1957) の原記載と Pietsch
and Grobecker (1987) の記載や図によく一
致する.

本種の現在までに報告されている標本数は
13個体であり, 本標本は14個体目の貴重
な資料とな

る。また、これまで水深 1.5–21 m の範囲から採集されており (Pietsch and Grobecker, 1987), 本標本が得られた中城湾の水深 (沿岸部で 25 m 以浅) はおおむねこの範囲内にある。

本種の命名者は、これまでほとんどの文献で Gosline とされてきた (Gosline and Brock, 1960; Tinker, 1978; Pietsch, 1984; Pietsch and Grobecker, 1987; Paxton et al., 1989; Eschmeyer et al., 1998)。これは Schultz (1957) が *Abantennarius analis* の原記載で命名者を Gosline にしたこと起因する。しかし、本文中には「本種は Gosline によって新種として考えられ、彼は私 (Schultz) に本種を本論文中で記載することを快く許可した (This species was recognized as new by Dr. Gosline, who kindly permitted me to include and describe it in this revision.)」と記述されている (Schultz, 1957: 68)。つまり、Gosline による記載の原稿があるわけではなく、彼は本種を新種であろうと認識していただけである。従って、本種の原記載に対する責任の所在は、Gosline ではなく Schultz にあると考えられ、国際動物命名規約第 3 版 (ICZN, 1985) の 50 条 (a) 項により、本種の命名者は Schultz であると判断された。

なお本種の標準和名ロケットイザリウオは、臀鰭基底部分にある鰓孔が宇宙へ飛び立つロケットの噴射口を連想させることに由来する。

謝 辞

本研究にあたり、記載標本を含む打ち上げ魚類の標本採集に多大な協力をされた南城利勝、風間崇宏、若林真紀 (新日本気象海洋 (株))、桜井雄 (沖縄環境調査 (株))、琉球大学理学部海洋学科の学生諸氏、および *Antennarius analis* の命名者の取り扱いについて貴重なご指摘をいただいた匿名のレフェリーに厚く御礼申し上げます。

引用文献

Eschmeyer, W. N., C. J. Ferraris, Jr., M. D. Hoang and D. J.

- Long. 1998. Part I. Species of fishes. Pages 25–1820 in W. N. Eschmeyer, ed. Catalog of fishes. Center Biodiv. Res. Info., Calif. Acad. Sci. Spec. Publ. 1.
- Gosline, W. A. and V. E. Brock. 1960. Handbook of Hawaiian fishes. Univ. Hawaii Press, Honolulu. ix+372 pp.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1964. Fishes of the Great Lakes Region. Univ. Michigan Press, Ann Arbor. xv+213 pp., 44 pls.
- ICZN (The International Commission on Zoological Nomenclature). 1985. International code of zoological nomenclature, third edition adopted by the XX general assembly of the International Union of Biological Sciences. International Trust for Zoological Nomenclature, London. xx+338 pp.
- 昆 健志・桜井 雄・吉野哲夫. 1998. 沖縄島中城村浜漁港における台風 13 号による打ち上げ魚類. 沖縄生物学会誌, 36: 37–50.
- Ohnishi, N., A. Iwata and W. Hiramatsu. 1997. *Antennatus flagellatus* (Teleostei: Antennariidae), a new species of frogfish from southern Japan. Ichthyol. Res., 44: 213–217.
- Paxton, J. R., D. F. Hoese, G. R. Allen and J. E. Hanley. 1989. Zoological catalogue of Australia. Vol. 7. Pisces Petromyzontidae to Carangidae. Aust. Gov. Publ. Serv., Canberra. xii+665 pp.
- Pietsch, T. W. 1984. The genera of frogfishes (Family Antennariidae). Copeia, 1984: 27–44.
- Pietsch, T. W. and D. B. Grobecker. 1987. Frogfishes of the world: systematics, zoogeography, and behavioral ecology. Stanford Univ. Press, Stanford. xxii+420 pp., 56 pls.
- Schultz, L. P. 1957. The frogfishes of the family Antennariidae. Proc. U. S. Nat. Mus., 107: 47–105, 14 pls.
- 瀬能 宏. 1993. イザリウオ科 Antennariidae. 中坊徹次 (編), pp. 388–391, 1279–1280. 日本産魚類検索図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 瀬能 宏・林 公義・横山貞夫. 1994. 奄美大島で採集された日本初記録のイザリウオモドキ (新称). I. O. P. Diving News, 5 (12): 2–3.
- Tinker, S. W. 1978. Fishes of Hawaii: A handbook of the marine fishes of Hawaii and the Central Pacific Ocean. Hawaiian Service, Honolulu. xl+532+xxxvi pp.
- 横田雅臣・瀬能 宏. 1991. 日本産イザリウオ科魚類—学名および和名の整理—. I. O. P. Diving News, 2 (6): 2–5.